2023年12月期

決算補足説明資料

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449

ご注意

- 本資料に記載された将来の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、
  将来発生する様々な要因により、異なる結果となる可能性を含みます。
- 2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）を適用しております。
- 2021年12月期以前の実績は「収益認識に関する会計基準」を適用する前の数値を記載しております。
- 2022年4月1日付で、連結対象の完全子会社「株式会社アクアリザーブ」と合併いたしました。
  これに伴い、2022年12月期 第2四半期から、「防災用貯給水タンク」の業績を「防災・工事事業」から「継手事業」にセグメント変更しております。そのため本資料では、セグメント変更後の数値を、参考情報として記載しております。

目次

1. 2023年12月期 決算概要

2. 2024年12月期 業績予想

3. 配当金について

（補足資料）テクノフレックスの概要

1. 2023年12月期 決算概要

2023年12月期　連結業績　1　前期比・予想比(1)

◆　連結業績（前期比・予想比）

単位：百万円

	連結業績		前期比		通期予想比	
	2022年	2023年	伸長額	伸長率	計画値	達成率
連結売上高	22,174	21,242	▲931	▲4.2%	22,500	94.5%
連結営業利益	2,752	1,482	▲ 1,269	▲46.1%	2,000	73.2%
親会社株主に帰属する当期/四半期純利益	2,413	966	▲ 1,447	▲60.0%	1,350	72.1%

※　2023年6月15日付で、2023年12月期の業績予想を修正しております。

※　当期終了後に子会社での架空取引が判明したことによる連結財務諸表への影響は、主に過年度の修正申告に伴う過年度法人税等4,796千円および租税公課3,850千円等であり、いずれも金額的重要性が乏しいと判断していることから、当期において当該影響額を反映しております。

※　2022年2Qに、連結子会社であった㈱アクアリザーブの吸収合併に伴い、法人税等調整額（益）566百万円を利益計上しております。

（ご参考）
仮に、前期の税効果566百万円が無かったとした場合の親会社株主に帰属する当期純利益は、概ね下記のようになります。

単位：百万円

	2022年	2023年	前期比（伸長率）	
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,847	966	▲881	▲47.7%

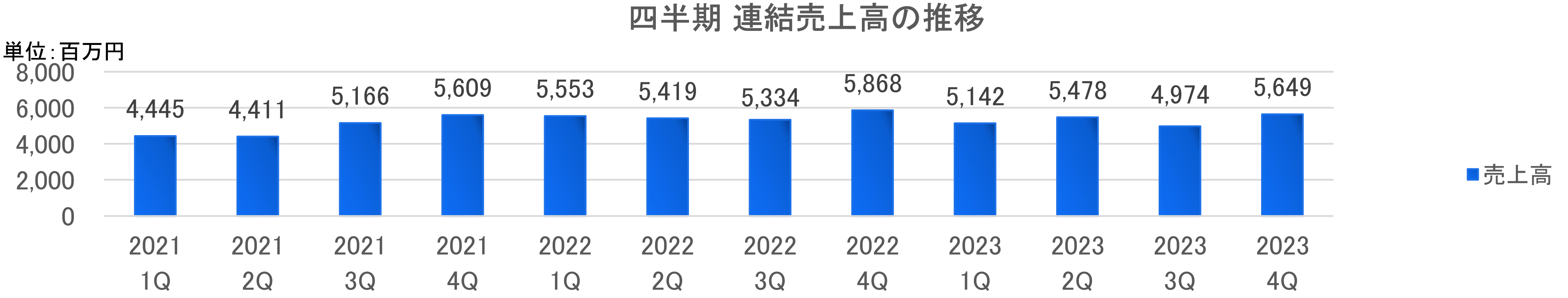
2023年12月期　連結業績　1　前期比・計画比(2)

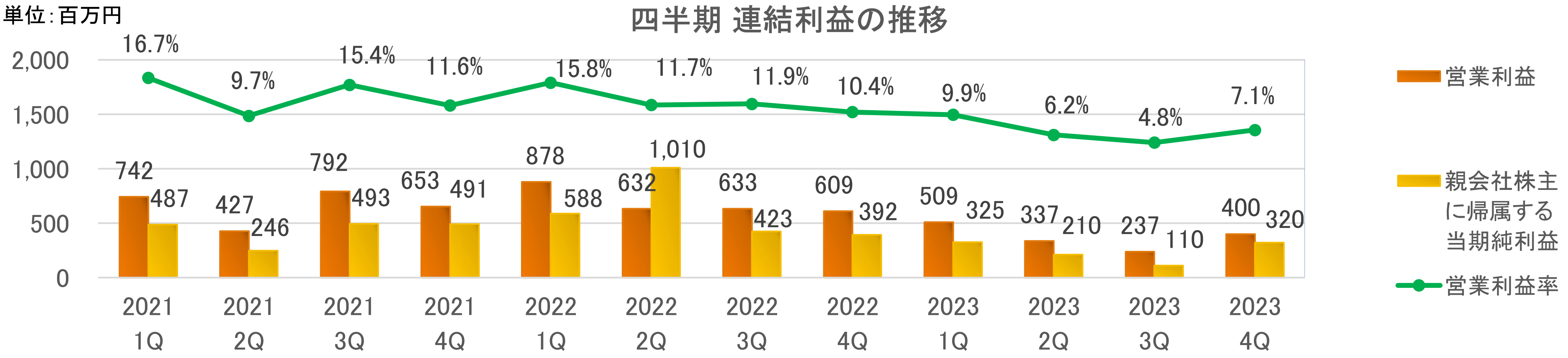
- 連結売上高　：　前期比▲931百万円（伸長率▲4.2%）
  - ✓ 国内外の半導体関連市場における在庫調整長期化の影響により、真空機器の売上が大幅に減少し、継手事業が減収となりました。
  - ✓ 防災・工事事業、自動車・ロボット事業、介護事業は、増収となりました。

- 連結営業利益　：　前期比▲1,269百万円（▲46.1%）
  - ➢ 継手事業
    - ✓ 半導体関連の真空機器の落ち込み等から、継手事業が減収となったことよる減益。（約▲353百万円）
    - ✓ 継手事業で、原価上昇分の価格転嫁に時間を要し、営業利益率が低下したことによる減益。（約▲466百万円）
  - ➢ 防災・工事事業
    - ✓ 原価上昇以前に契約した工事の価格転嫁が進まず営業利益率が低下したことと、不採算案件等からコストが増加したことによる減益。（▲396百万円）

- 親会社株主に帰属する四半期純利益　：　前期比▲1,447百万円（▲60.0%）
  - ✓ 前期2Qに法人税等調整額（益）を計上した反動による減益。（▲566百万円）
  - ✓ 連結営業利益の減少に伴う減益、為替影響等。（▲881百万円）

2023年12月期　連結業績　2　四半期業績の推移





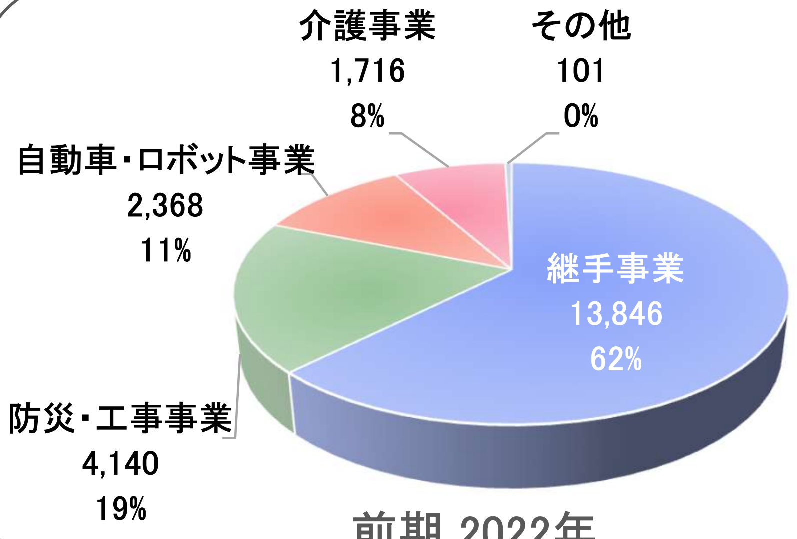
- 四半期業績は、半導体関連の設備工事（継手事業 真空機器）や消防設備工事（防災・工事事業）といった工事業が売上を計上するタイミングによって、四半期業績が大きく変動します。
  特に、工事業は案件により利益率が大きく異なるため、四半期の連結営業利益が大きく影響を受けます。
- 2022年2Qの親会社株主に帰属する四半期純利益が大きいのは、連結子会社であった㈱アクアリザーブの吸収合併に伴う税効果によるものです。
- 当期3Qの連結営業利益率が低下しているのは、防災・工事事業における不採算案件の発生が主な要因です。

2023年12月期　セグメント構成比

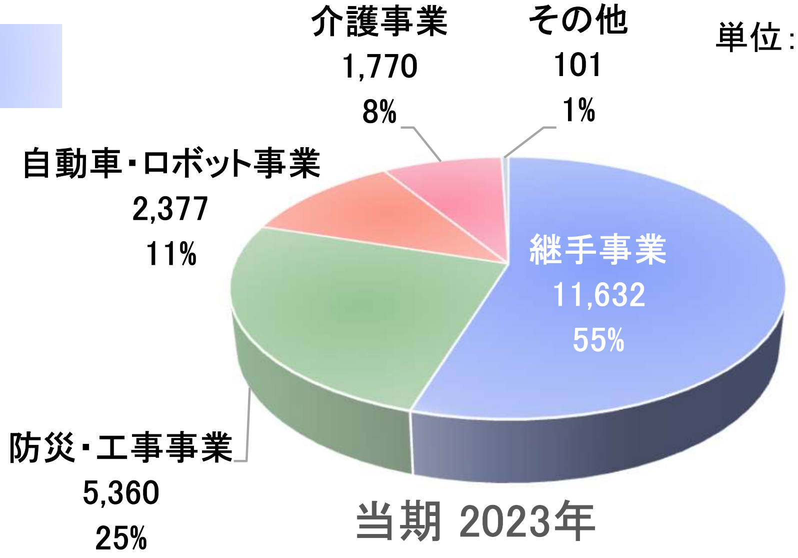
TECHNOFLEX

売上高

単位：百万円



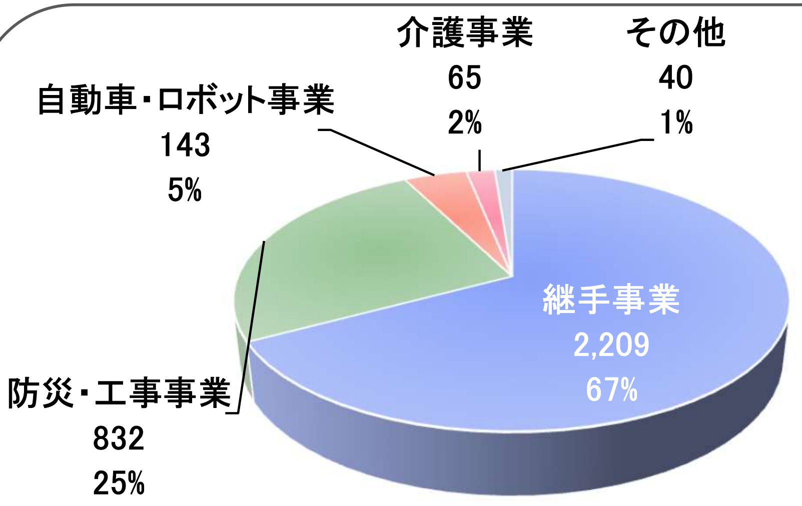
前期 2022年



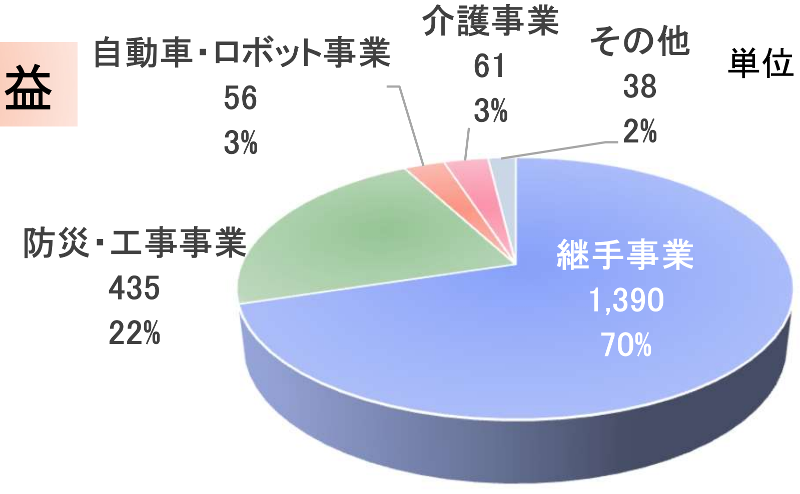
当期 2023年

セグメント利益

単位：百万円



前期 2022年

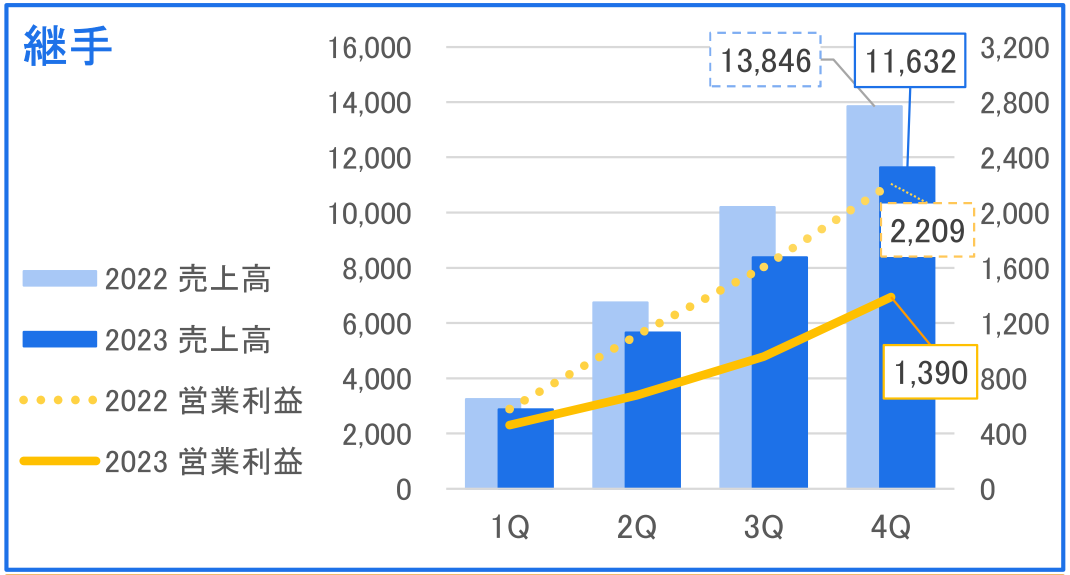


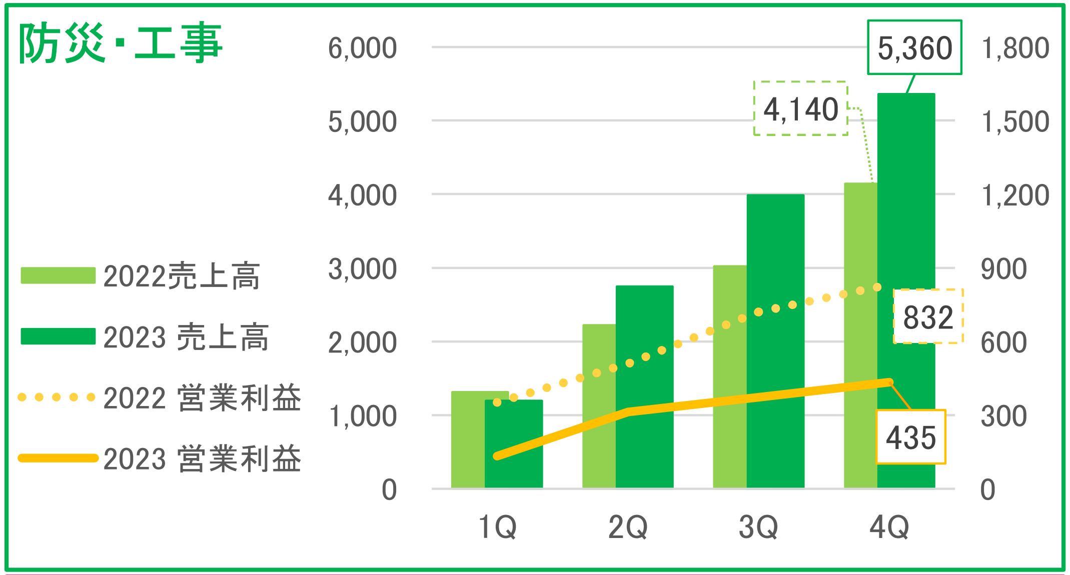
当期 2023年

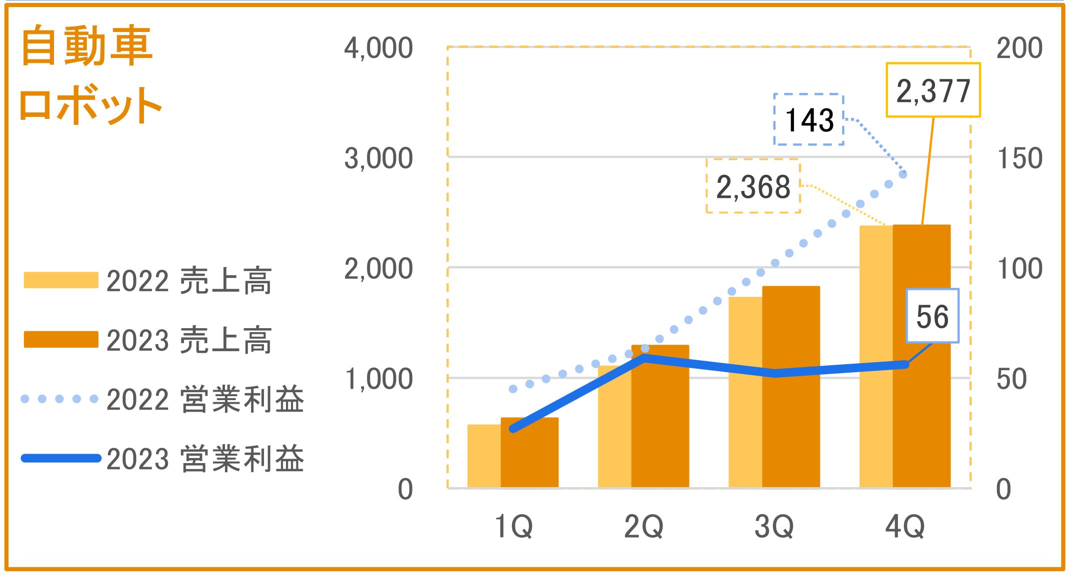
2022年12月期　セグメント業績　前期比（累計）

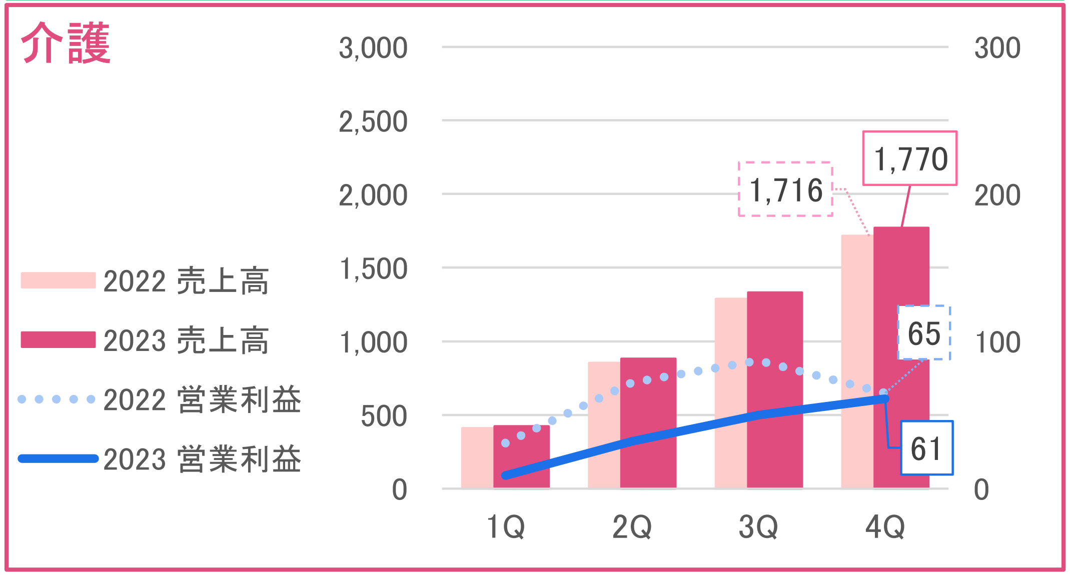
TECHNOFLEX

単位：百万円





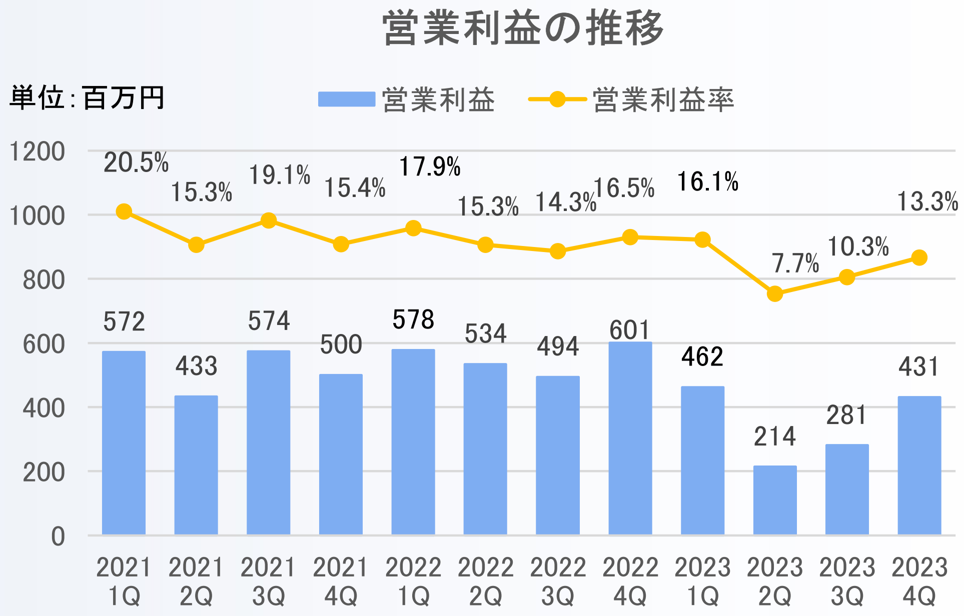




- 売上高は、継手事業が前期比マイナス、他の3事業が前期比プラスとなりました。
- 営業利益は、全ての事業が前期比マイナスとなりました。

2023年12月期　セグメント業績　1　継手事業

◆ 継手事業(1)



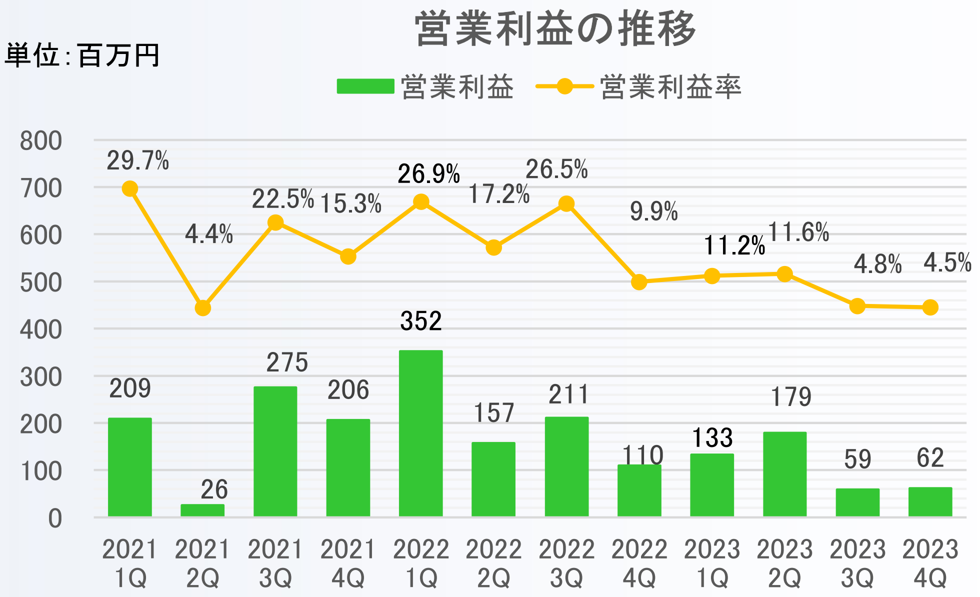
- 前期比　:　売上高▲2,214百万円(▲16.0%)、営業利益▲819百万円(▲37.1%)

半導体市場の在庫調整長期化による影響から真空機器の売上高が減少し、継手事業全体の収益が低下しました。

- ➢ フレキシブル継手
  4Q累計で前期比増収に転じましたが、原価上昇分の価格転嫁に時間を要したため、増収減益となりました。
- ➢ 真空機器
  通期に渡り国内外の半導体市場が不調であったため、前期比マイナスとなりました。

2023年12月期　セグメント業績　2　防災・工事事業

◆ 防災・工事事業



● 前期比　：　売上高+1,220百万円（+29.5%）、営業利益▲396百万円（▲47.7%）

➢ 消防設備工事

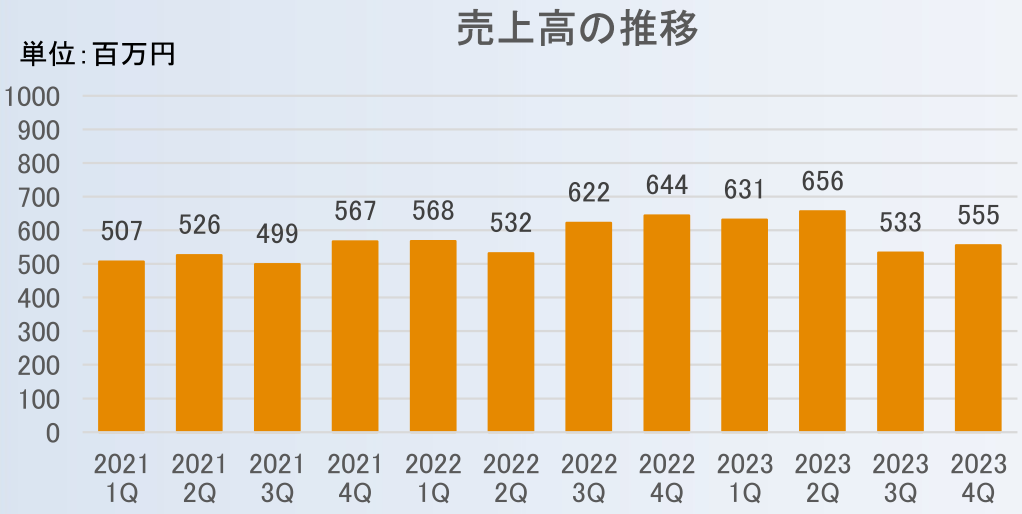
売上高は前期比29.5%増加しましたが、下記の要因から利益率が前期比12.0%低下したため、増収減益となりました。

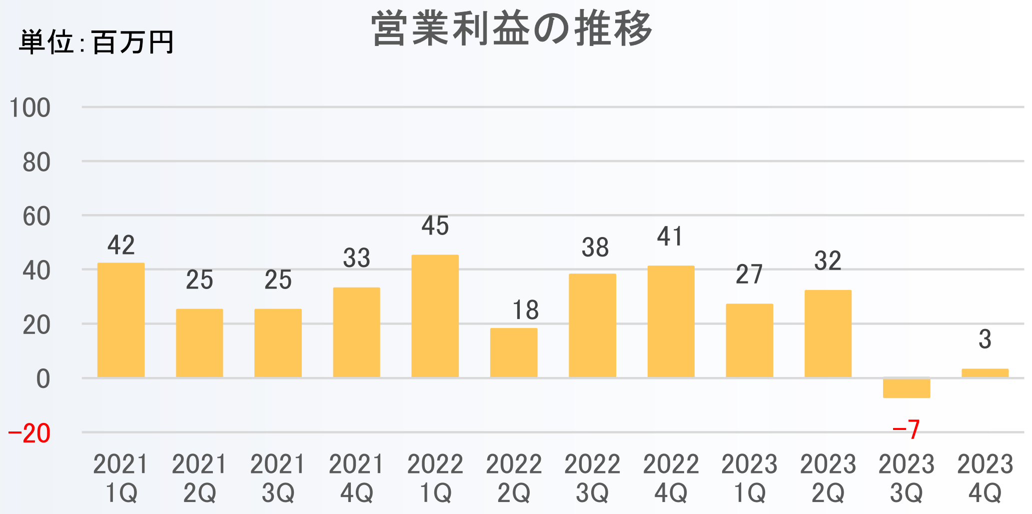
✓ 原価上昇の前に契約した工事で価格転嫁が進まず、営業利益率が低下しました。

✓ 不採算案件の発生により、営業利益率が低下しました。

2023年12月期　セグメント業績　3　自動車・ロボット事業

◆ 自動車・ロボット事業





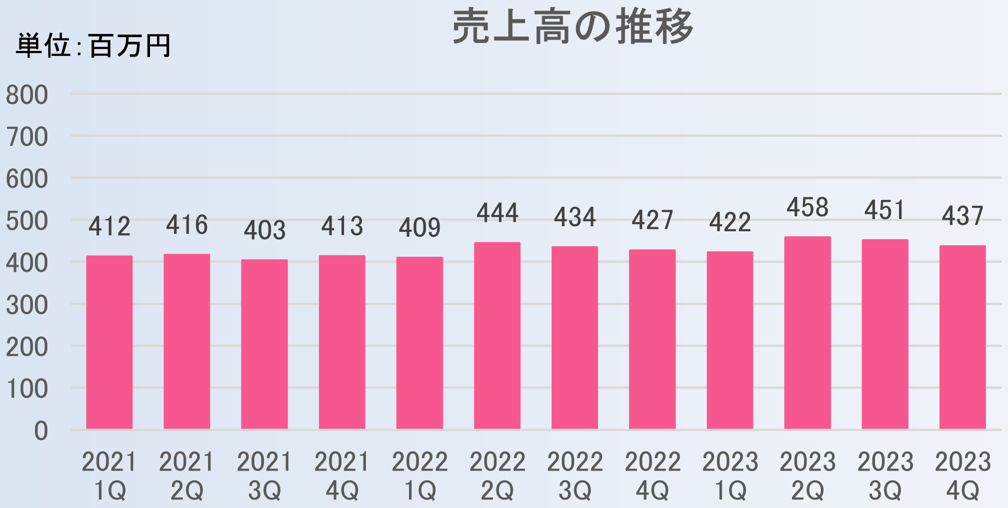
- 前期比 ： 売上高+8百万円（+0.4%）、営業利益▲87百万円（▲60.8%）

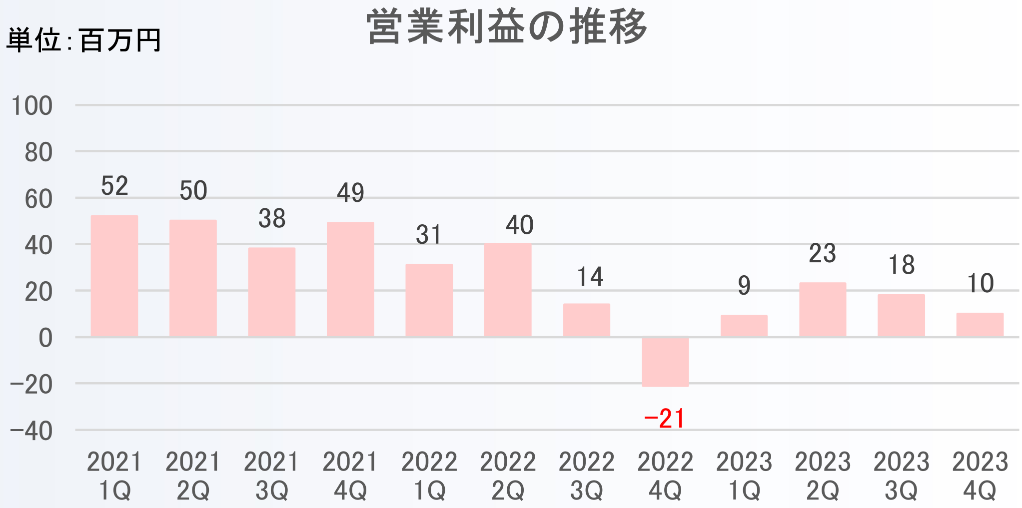
  - 自動車分野は、売上高は堅調に推移しておりますが、原価上昇の影響から営業利益は減少しました。

  - ロボット分野は、上期は増収増益で推移しておりましたが、原価上昇に加え、増産体制の構築にコストを費やしている最中に、顧客の生産調整が開始されたため、利益率が低下し減収減益となりました。

2023年12月期　セグメント業績　4　介護事業

◆ 介護事業





- 前期比　：　売上高+53百万円（+3.1%）、営業利益▲4百万円（▲6.7%）

➢ 売上高は、前期比で増収となりましたが、利益面では、前期に他社から福祉用具レンタル事業の買収等を行ったことによる、のれん償却費等の販管費の増加と、レンタル市場の競争激化、レンタル原価の上昇、介護業界の人員不足等から、前期比で減益となっております。

2. 2024年12月期 業績予想

2024年12月期連結業績予想　SUMMARY

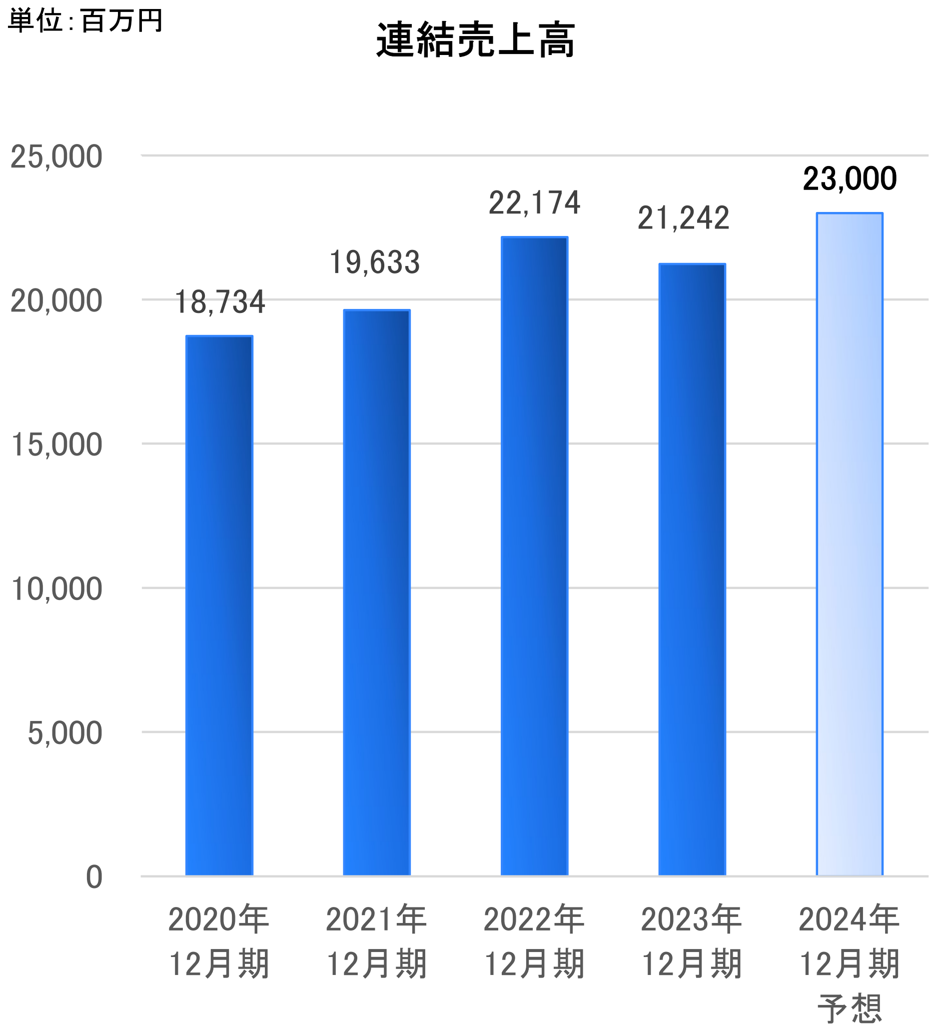
◆　連結業績予想

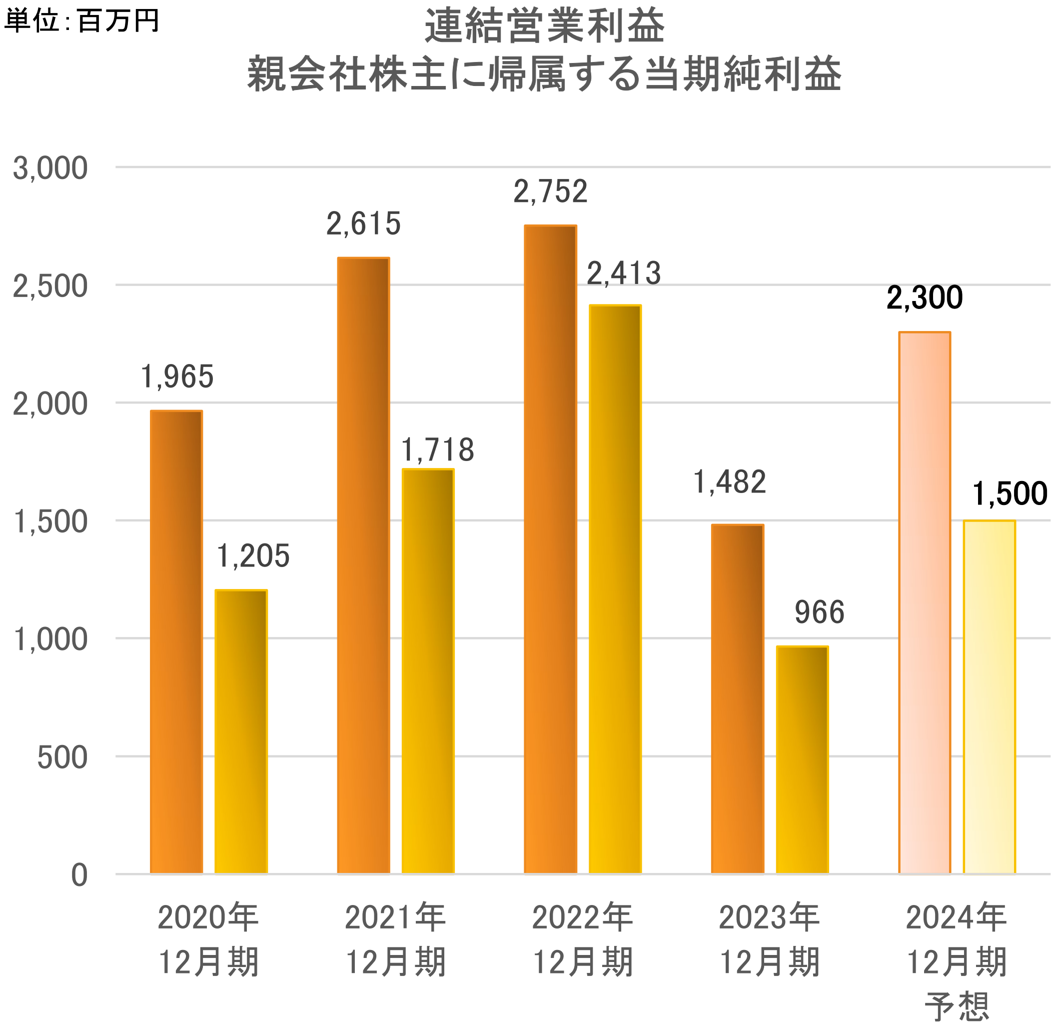
単位：百万円

	2Q累計		通期	
	2023年 業績	2024年 予想	2023年 業績	2024年 予想
連結売上高	10,620	10,900　（　+2.6%）	21,242	23,000　（+8.3%）
連結営業利益	846	950　（　+12.3%）	1,482	2,300　（+55.1%）
親会社株主に帰属する当期純利益	535	600　（　+12.0%）	966	1,500　（+55.2%）

- 連結売上高
  - ➢ 前期に落ち込んだ真空機器（継手事業）の売上が、下期から回復する見込みとしています。
- 連結営業利益
  - ➢ 原価上昇分の価格転嫁が進み、利益率が回復する見込みです。
  - ➢ 前期に複数件あった消防設備工事における不採算案件の発生を防止し、利益確保に努めます。
- 親会社株主に帰属する当期純利益
  - ➢ 営業利益の回復による、親会社株主に帰属する当期純利益の回復を見込んでいます。

2024年12月期連結業績予想（直近4年間の実績と比較）





3. 配当金について

2023年12月期 と 2024年12月期の 配当予想

	1株あたり配当金（円）		
	中間配当金	期末配当金	合計（年間配当）
2023年12月期	27円00銭	27円00銭	54円00銭
2024年12月期 予想	27円00銭	27円00銭	54円00銭

◆ 2023年12月期の配当予想
期初に開示いたしました通り、年間54円（中間27円、期末27円）の配当をお支払いいたしました。

◆ 2024年12月期の配当予想
2023年12月期を上回る利益を確保し、年間54円（中間27円、期末27円）の配当を維持する計画としております。

当社は、株主様に対する利益還元について、安定的かつ継続的に実施することを重要な経営課題と認識し、経営環境、将来の事業展開、業績の推移及び長期的な事業展開と財務体質・収益基盤の強化、並びに内部留保の充実等を総合的に勘案したうえで決定し、安定的かつ継続的な配当に加え業績連動により年間配当性向40%以上を目標とすることを基本方針としております。

（補足資料） テクノフレックスの概要

会社概要

会社名	株式会社テクノフレックス
代表者名	代表取締役社長　前島　岳
本社所在地	東京都台東区蔵前一丁目5番1号
資本金	10億円（2022年12月31日現在）
設立日	1977年8月
決算期	12月決算
事業内容	継手事業 ／ 防災・工事事業 ／ 自動車・ロボット事業 ／ 介護事業
従業員数	単体：368名（2023年12月31日現在） 連結：988名　※臨時雇用者を含む

沿革

TECHNOFLEX

継手

1977年
東京フレックス工業株式会社(現株式会社テクノフレックス)設立

1988年
天津天富軟管工業有限公司設立

1994年
TF (VIETNAM) CO., Ltd. 設立

2000年
株式会社東京螺旋管製作所（現株式会社テクノフレックス）子会社化

2001年
東洋螺旋管工業株式会社（現株式会社テクノフレックス）子会社化

2003年
天孚真空機器軟管(上海)有限公司 設立

防災・工事

2004年
有限会社中野製作所(現株式会社中野製作所)子会社化

2009年
株式会社防災企画（現株式会社TFエンジニアリング)子会社化

2014年
株式会社アクアリザーブ（現株式会社テクノフレックス)株式会社TFエンジニアリング設立

2017年
ニトックス株式会社子会社化

自動車・ロボット

2013年
株式会社チューブフォーミング子会社化

介護

1995年
株式会社ティーエフケアー(現株式会社スペースケア)設立

皆様の生活とのかかわり

◆ テクノフレックスグループは、「生活インフラ」「産業・先端技術」「防災」「介護」の4つの分野で、皆様の暮らす社会を支える事業を展開しています。

※ 上記の分野は、当社グループの事業を、皆様の生活に係る4つの分野に整理したものであり、当社の会計上の事業セグメントとは異なります。

当社グループの4つの事業セグメント

① 継手事業

② 防災・工事事業

③ 自動車・ロボット事業

④ 介護事業

マーケットと 4つの事業セグメント

TECHNOFLEX

■ 当グループがターゲットとするマーケットは多岐にわたり、特に事業拡大を見込む市場としては消防/スプリンクラー、水道、半導体、原子力、水素、貯水タンク、EV車、ロボット、産業・機械、商品販売（介護）、海外市場が挙げられます

（赤枠）：今後事業拡大を見込む市場

①継手事業

※ ●スプリンクラー、★真空にはそれぞれスプリンクラー工事および真空工事を含んでいる

国内市場

- 建築
- 製鉄
- 石油化学プラント
- 造船
- 医療機器
- 水道（今後事業拡大を見込む市場）
- 原子力（今後事業拡大を見込む市場）
- 水素（今後事業拡大を見込む市場）
- 電力
- ガス
- 貯給水タンク（今後事業拡大を見込む市場）
- ●消防/スプリンクラー（今後事業拡大を見込む市場）
- ★半導体（今後事業拡大を見込む市場）
- 産業・機械（今後事業拡大を見込む市場）

海外市場

- 天津（今後事業拡大を見込む市場）
- 上海（今後事業拡大を見込む市場）
- ベトナム（今後事業拡大を見込む市場）

②防災・工事事業

- ●消防/スプリンクラー
- ★半導体

③自動車・ロボット事業

- 半導体
- 産業・機械
- ロボット（今後事業拡大を見込む市場）
- EV車（今後事業拡大を見込む市場）
- ガソリン車

④介護事業

- 介護用品（今後事業拡大を見込む市場）

事業セグメント　１　継手事業

TECHNOFLEX

◆ 管継手　：　管と管のつなぎ目
- 固定式　：　T字型・L字型など固定形状の継手
- 可撓式　：　継手自体が曲がったり伸び縮みしたりできる継手

テクノフレックス

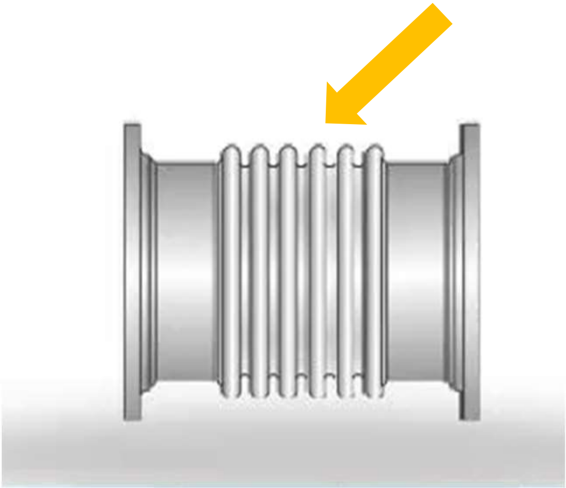
◆ テクノフレックスの管継手は大きく3種類

【フレキシブル継手】

全体が曲がる継手

【伸縮管継手】

波状の部分で
伸縮が可能



【真空機器】

真空配管用の
継手・金属部品

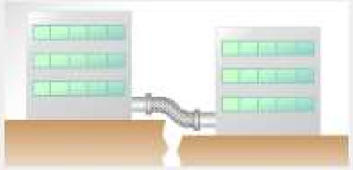
事業セグメント　1　継手事業　①フレキシブル継手

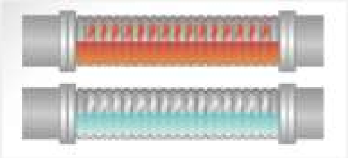
◆配管作業を容易に ▶ 作業効率向上。経験の浅い作業者でも設置でき、人手不足の解消にも貢献。
◆耐震性 ▶ 地震への対策から、耐震性の需要が高まる。

町のあちこちに
テクノフレックス

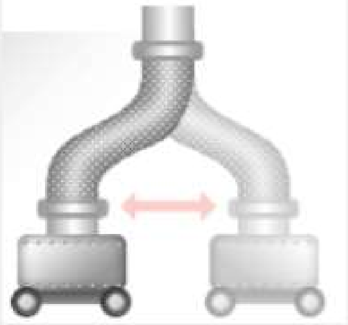
大地震で曲がっても
オイル漏れの無い
フレキシブル継手の例

変位吸収

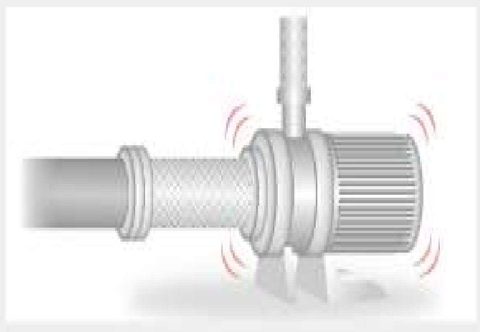




機械的な動作に
対応

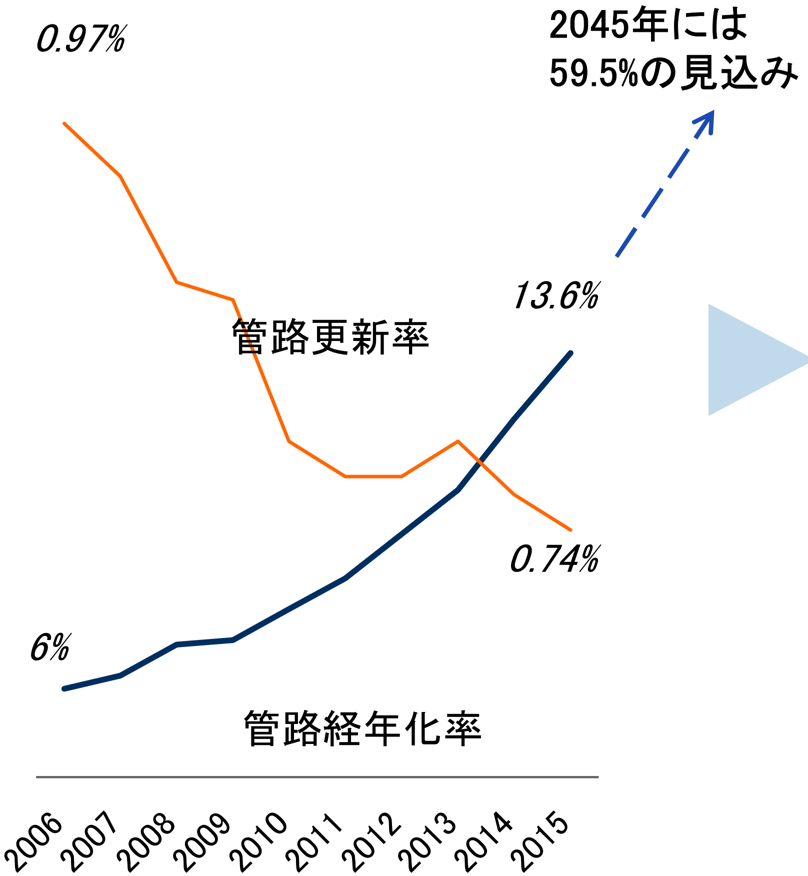


振動吸収



作業効率

水道の老朽化は進む一方で、管路更新が進んでいない。



SDF工法

- 掘り起こし困難な場所に最適。
- 既存の水道管の中を通して補修。

SDF工法向けにフレキ管を供給

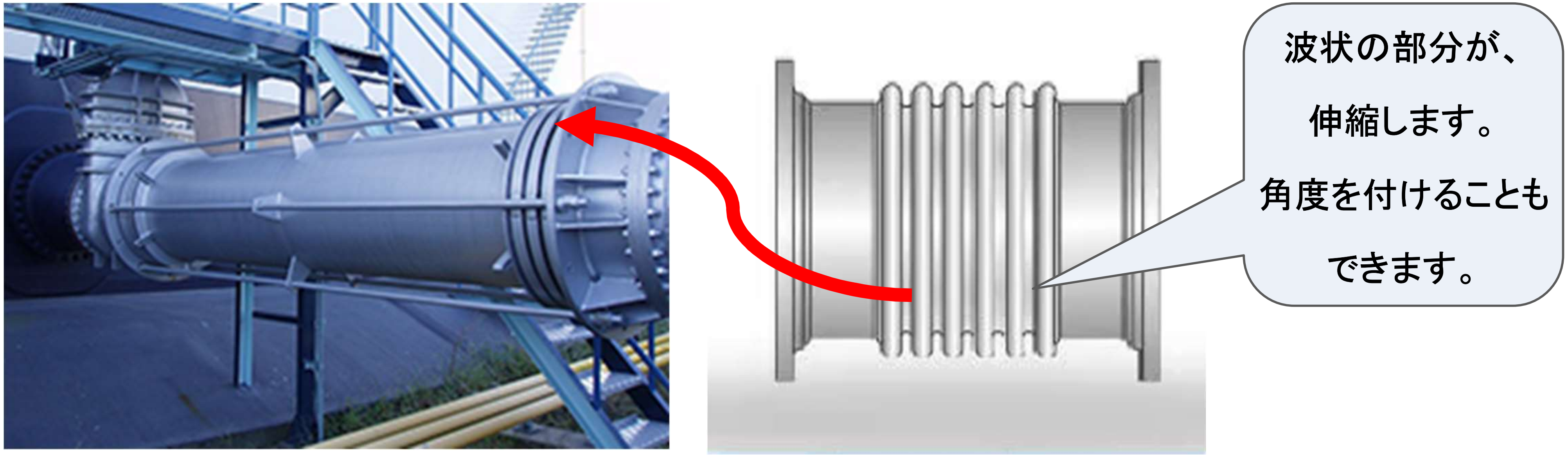
第1回インフラメンテナンス大賞
（厚生労働大臣賞）

出所：　最近の水道行政の動向について（厚生労働省）

事業セグメント　1　継手事業　②伸縮管継手

◆ 地震や熱膨張など、様々な負荷から設備機器と配管を守ります。
◆ 耐震性に優れ、配管の破損や脱落による流体漏洩等の2次災害を防止。
◆ 設置場所

エネルギー関連	石油・化学プラント、電力プラント、LNGプラント、LNG船、 水素ステーション、水素運搬船など。
ライフライン	ガス・水道など。
大規模産業設備	製鉄プラントなど。



事業セグメント　１　継手事業　③真空機器

◆ 真空配管とは、微細なゴミも嫌う設備などに設置されるクリーンな配管のこと。
  - 真空機器の製品は、厳しい検査に合格した、気密性に優れた製品。
  - ステンレス製の継手は、組織を均一化するため、熱処理を施す。

◆ 製品供給に加え、配管の設置工事・プレハブ加工も一括で受けられるのが、当社の強み。

◆ 使用用途

半導体製造装置、FPD製造装置、真空ポンプ、医療機器、医薬品・食品工場などの機械装置
装置間の真空配管
真空ポンプの配管
温度調節用の配管（チラーホース、クライオホース）

事業セグメント　１　継手事業　③真空機器（用途）

TECHNOFLEX

- **当期の状況**
  - ◆ 世界的な半導体需要の高まりから、半導体製造メーカーによる工場の新設や製造ラインの増設が活況。
  - ◆ 半導体の製造（特に前工程）にはクリーンルーム等の真空空間が必要なため、真空ポンプと真空配管を設置。
    - ➢ 真空機器の需要が拡大。
  - ◆ 当社の真空機器は、半導体・FPD等の製造装置用、真空ポンプ用、装置間真空配管用の3つの用途で、使用。
  - ◆ <u>真空配管の設置工事</u>と<u>工場でのプレハブ加工</u>も請け負っており、製品と工事の両面でサポート。

- **成長イメージ**
  - ◆ 真空配管は、半導体のみならず、様々な分野の工場で需要が増加。
  - ◆ 高度な医療用の診断装置に設置。
  - ◆ チラーホース、クライオホースのマーケットシェア獲得。

    ※　低温・極低温の空間をつくるための冷却用長尺ホース。近年は加温でも使用。
    半導体工場等では、高真空・極高真空の空間をつくるためのクライオポンプとクリーンルームとをつなぐ配管に設置。

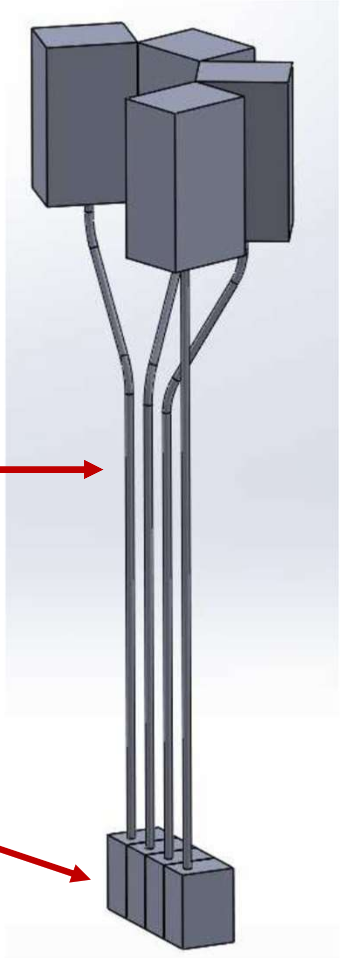
真空機器の用途

チラーホース
クライオホース
高真空化・極高真空化

半導体・FPD等の
製造装置に設置
装置メーカーへ出荷

装置間の
真空配管に設置
工場の真空配管設置現場へ出荷

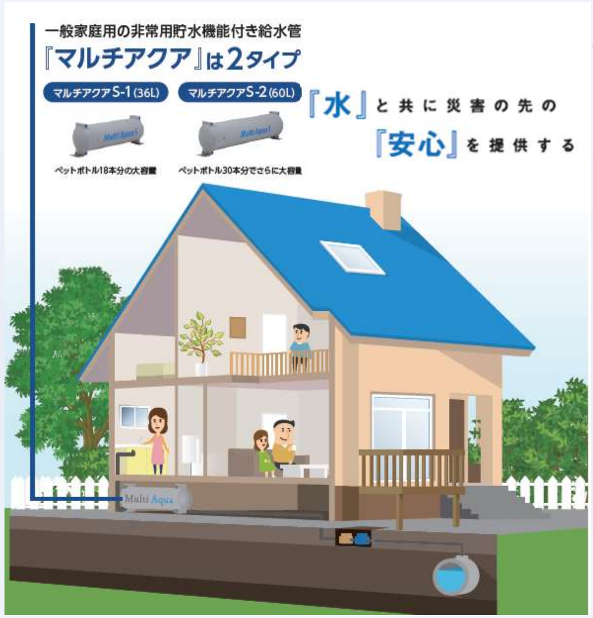
真空ポンプに設置
ポンプメーカーへ出荷



事業セグメント　１　継手事業　④貯水機能付給水装置（防災用貯給水タンク）

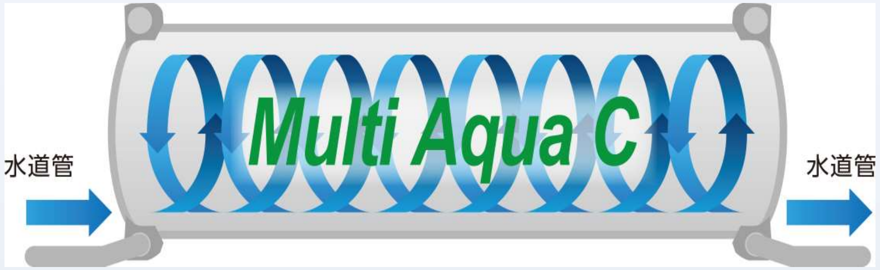
防災用貯給水タンク「マルチアクア」

- マルチアクアは、平常時には、給水配管（水道管）の一部として機能しながら貯水を行い、災害等による断水時には、直前まで貯水されたタンク内の水道水を供給する、貯給水タンクです。
- 水道水を使うたびに、マルチアクア内に新しい水道水が貯水されます。そのため、備蓄水のように、消費期限の管理や交換を行う手間が生じません。
- 災害発生時には、飲用の他、傷口の洗浄等にも水が必要です。傷口の洗浄には水道水が適しているとされており、マルチアクアは、飲用にも傷口の洗浄にもご活用いただけます。
- 戸建住宅用には、設置場所に困らない、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。
- ペットボトル等の樹脂製容器の使用を削減する効果がございます。サステナブルな社会の実現に、貢献して参ります。



◀ 戸建住宅用には、床下収納の開口部から床下に設置できる製品もございます。

タンク内の水が循環して常に新しい水を貯水します。▶



企業のBCP向け製品「マルチアクアC」。▼

※ マルチアクアのご紹介ページ： https://multiaqua.jp/

事業セグメント　２　防災･工事事業

◆ 配管を軸に、川下戦略による防災･工事事業への参入。
◆ 防災･工事事業には、2つの事業。

消火設備の配管工事
配管のプレハブ加工

- スプリンクラー等の消火設備の配管工事
- 工場で行う配管のプレハブ加工

自動切断機

水道管及び電柱の
切断装置

- 自走しながら配管や電柱を切断。
- 東京都が推奨する無電柱化に貢献。

事業セグメント　３　自動車・ロボット事業　／　４　介護事業

自動車・ロボット事業

- 金属塑性技術を生かした、金属部品の軽量化、材料費の低減及び強度増。
- 多くの自動車メーカーで使用。
- ロボット分野の需要拡大。
- 半導体工場等の機械装置用部品にも採用。

介護事業

- ケアプランに沿った福祉用具レンタル
- 福祉用具の販売
- 介護用マットレスの洗浄
- 住宅バリアフリー化工事
- 介護サービスの創造

テクノフレックスグループの将来を見据える上で重要なキーワード

TECHNOFLEX

■ 当グループを取り巻く環境に大きなインパクトを与える重要キーワードを5つピックアップしました

重要キーワード	市場にもたらす変化	該当セグメント
1 気候変動等による災害増加に対する防災意識の高まり（国土強靭化計画）	✓防災設備需要の拡大 ✓国民の防災意識の高まり	✓継手事業 ✓防災・工事事業
2 戦後日本が築いてきた社会インフラ老朽化対応（水道の老朽化対応、都市再開発）	✓水道整備関連の予算拡充に伴う取替需要増加 ✓都市再開発に伴うビル等の建替需要増加	✓継手事業 ✓防災・工事事業
3 AIと自動化（5G商用化、ロボティクス）	✓半導体市場の拡大 ✓ロボット市場の拡大	✓継手事業 ✓自動車・ロボット事業
4 クリーンエネルギー（脱炭素化、脱ガソリン、脱エンジン）	✓エンジン搭載車の減少、EV化 ✓化石燃料以外の燃料（水素等）の輸送・貯蔵 ✓クリーンエネルギー設備増設	✓継手事業 ✓自動車・ロボット事業
5 ヘルスケア（地域包括ケアシステム推進）	✓在宅介護が支援されることによる、各家庭向けの福祉用具需要の高まり	✓介護事業 ✓自動車・ロボット事業

国内マーケットの動向サマリ(1/3)

■ 産業・機械と電力は成長、製鉄、石油化学プラント、ガスは低迷を予想しています
■ 建築は、中長期的には需要拡大が見込まれるものの、働き手離職等のリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	建築	✓ 中長期的には都市再開発や防災対策に伴う需要を見込めるものの、働き手の大量離職等の不安要素があり下振れのリスクあり
継手	製鉄	✓ 足もとでは、鉄の供給不足が懸念材料 ✓ 中長期的には、主要販売先である造船・航空機について今後低迷が予想されることや、EV化により鉄の必要量が減少する可能性があり、見通しは厳しい
継手	石油化学プラント	✓ 石油化学製品の供給過多やプラスチックに対する規制強化等により、石油化学業界にて積極的な設備投資を期待することは難しいため、低迷傾向が継続するリスクあり
継手	産業・機械	✓ 半導体等の成長産業での設備投資が見込まれる。 ✓ メインユーザー層である中堅・中小企業の設備投資は冷え込む予想。
継手	ガス	✓ 人口減少や温暖化対策等による需要減少リスクあり
継手	電力	✓ 政府の推進する再生エネルギー導入拡大に向け、送電インフラ整備に伴う設備投資需要が見込まれることから、今後の見通しは良好

国内マーケットの動向サマリ(2/3)

TECHNOFLEX

■ 消防・スプリンクラー、水道、半導体、水素は成長、造船は低迷を予想しています
■ 原子力は堅調予測ですが、再生エネルギーの動向次第で縮退するリスクがあり、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
継手	造船	✓ 将来的には水素運搬船に期待が持てるが、コロナ禍以降は輸送量が減少し、外部環境としては厳しい見通し
	消防 スプリンクラー	✓ スプリンクラー設置義務の課される大型施設の新設が引き続き見込まれること、及び過去に設置したスプリンクラーの取替需要が見込まれることから、今後の市場動向は明るい見通し
	水道	✓ 水道管路の老朽化が進んでおり、今後の更新需要が期待される ✓ 成長ドライバーであるSDF工法に対する需要も今後増加見込み
	半導体	✓ メモリーの市場は、増減の波が大きく生じるものの、中長期的な成長が見込まれる ✓ 国内の先端半導体市場に期待
	原子力	✓ 政府による原子力活用の提言により、当面の需要は堅調予測 ✓ 一方で再生エネルギーの成長状況により、将来的には稼働が抑えられ縮退するリスクもあり
	水素	✓ 水素燃料の市場規模が今後拡大していくことに伴い、今後の見通しは良好
	貯給水タンク	✓ 個人/法人の備蓄水に対する需要の高まりや、災害時の一時滞在施設の設置推進の動きにより、今後の需要は拡大の見通し

国内マーケットの動向サマリ(3/3)

TECHNOFLEX

- 消防設備工事、貯水タンク、ロボット、介護事業は成長、ガソリン車は現状維持を予想しています
- EV車は成長見込みの一方、低価格化や社会インフラ整備といった課題を有するため、不安要素ありと評価しています

マーケット		今後5年間の動向
防災・工事		✓ 半導体工場、データセンターの増設により、消防設備工事が増加 ✓ 都市の再開発による建物の高層化・大型化で、消防設備工事が増加
自動車ロボット	ガソリン車	✓ 自動車需要は世界的に高まりを見せる一方で、EV車の割合が増加していくことから、差し当たっては緩やかな増加/横ばい傾向が予想される
	EV車	✓ 脱炭素に向けた動きもあり、今後大きく伸長する見通し ✓ 一方で低価格化や社会インフラ整備などの課題もあり、普及が遅れるリスクもあり
	ロボット	✓ 自動車を中心とした低価格化の要請に応える形で需要を大きく拡大していく見通し
介護		✓ 少子高齢化の進行に伴い、今後の需要は引き続き伸長していく見込み ✓ 高齢者人口の増加と併せて、中国で廉価な福祉用具が流通しており、国内販売市場を開拓できる余地あり

2023年12月期

決算補足説明資料　－ 完 －

株式会社テクノフレックス
証券コード:3449